



さいたま

Nursing

2020.11.30 NO. 125



嵐山町嵐山溪谷 〈一般社団法人埼玉県物産観光協会より〉

会員数 **25,299**名 (2020.8.31現在)

保健師	440名
助産師	940名
看護師	23,283名
准看護師	636名
対前年度比	65名増

特集

生きるを、ともに、つくる。

座談会 感染管理認定看護師の活躍 P4~5

ごあいさつ P 2

124号アンケート／緊急企画 講演会・研修会／

オンライン研修のご案内 P 3

コロナ禍における看護教育 P6~7

お知らせ P 8



埼玉県看護協会ホームページ
<https://www.nurse-saitama.jp>

ごあいさつ

公益社団法人埼玉県看護協会 専務理事
澤登 智子



平素より会員の皆様には協会活動に対するご理解・ご協力を賜り感謝申し上げます。

COVID-19の感染拡大に伴い、協会では一般研修、認定看護管理者教育課程等の開催を中止や延期としました。会員の皆様におかれましては研修会への期待を寄せていただいていたことと思いますが、今までに経験したことの無い感染症に見舞われ、これまで通りの開催をすることができず大変申し訳ありませんでした。9月からは皆様のご期待に添えるようZoomの活用も加え研修会を徐々に開催しております。

今年の4月上旬、埼玉県からホテル療養支援の協力要請が協会に入りました。この要請を受け、協会では職員一丸となって慌しく準備を進め支援を開始することができました。協会職員と44名の採用看護師が、4月15日から9月30日までの間に4か所のホテル療養施設で活動しました。

また埼玉県とさいたま市から保健所の帰国者接触者相談センター電話相談の委託も受けています。6月29日からさいたま市委託分、7月29日から埼玉县委託分の電話相談を実施しています。協会職員と約100名の採用保健師・看護師が現在活動中です。

COVID-19の病態や治療、保健所の対策等の情報は日々更新されています。私たちはその都度正しい情報を積極的に把握し、相談員全体で共有することで県民に適切な対応ができるよう尽力しています。電話相談ではありますが、保健師・看護師の力を十二分に発揮するために、協会職員が中心となって看護管理にも注力しています。

この感染症が社会に及ぼす影響の予測は大変難しい状況です。しかし県民の健康と命を守るために看護の力を精一杯発揮して貢献していくことが求められています。

会員の皆様の日々の活動において今後も感染対策は試行錯誤の連続かもしれません。どうか仲間との協働を大切に共に乗り越えていきましょう。



約100名の看護師が
看護の心で寄り添う電話相談員として活躍



宿泊療養者対応のため
異なる経歴の20名が、それぞれ強みを発揮

アンケートへのご協力ありがとうございます



124号のアンケートにたくさんの投稿をお寄せいただきました。
みなさまからのお声の一部をご紹介します。



特集：新型コロナウイルス感染症

〈ご意見・ご感想〉

- タイムリーで考えさせられました。オンライン面会など、コロナ対応へのヒントをいただきました。
- コロナウイルスとの共存を図るための対策は何が正解で不正解なのかわからないところもありますが、基本的な感染対策方法を大切に明日からまたがんばろうと思いました。

- コラムのコロナ禍の看取りについて、「尊重されるべきは患者と家族の気持ち」とあり、まさにそのとおりだと思った。私たち看護師は、コロナの時代であっても患者の疾患だけではなく、患者と家族の気持ちに寄り添っていきたい。
- コロナの最前線である保健所や病院の具体的な取り組みを知り、コロナと闘っているのは自分たちだけじゃないんだと力になりました。

たくさんのご回答をいただきました。ありがとうございました。

緊急企画

講演会・研修会を開催します！ 開催日▶令和2年12月5日(土)

講演会

テーマ 新型コロナウイルス感染症の現状とこれからの備えて

講師 岡部 信彦 氏

内閣官房新型コロナウイルス感染症対策分科会構成員
埼玉県新型コロナウイルス専門家会議委員
川崎市健康安全研究所所長

時間 10:00～12:00

形式 対面およびオンライン(Zoom)

定員 各90名

参加費 会員2,000円 非会員6,000円

研修会

テーマ 看護管理者の覚悟②
管理者の倫理課題『後戻りできない』
～未曾有の事態に直面し、
どのように思考し、行動したか～

講師 長坂 奎英 氏

キッコーマン総合病院 看護部長

時間 13:30～16:30

形式 オンライン(Zoom)

対象 看護管理者(看護部長・副部長・師長相当)

定員 各30名

参加費 会員2,000円 非会員6,000円

オンライン研修のご案内



9月より、Zoomによるオンライン研修がスタートしております。

1,775人の方が受講され「通常と変わらない雰囲気、とてもわかりやすかった」「質問しやすく、活発なやり取りができた」「時間が有効に使える」というご意見をいただいております。引き続き、オンライン研修をスムーズに受講していただくためのポイントをご案内いたします。

◎申し込みの際には必ずメールアドレスを入力してください。

◎初めてZoomを使われる方は、事前に動作確認をお願いいたします。

※Zoomの招待メールは、研修開催5日前を目安に事務局より送信します。

座談会

感染管理認定
看護師の活躍

飯干 雅稔さん

三郷中央総合病院
感染管理認定看護師13年目

大沢 朗子さん

埼玉県立循環器呼吸器病センター
感染管理認定看護師5年目

高平 裕樹さん

新久喜総合病院
感染管理認定看護師4年目

木村 英恵さん

さいたま市立病院
感染管理認定看護師6年目

……………埼玉県では、64名^{*}の感染管理認定看護師のみなさんが活躍されています！……………

※日本看護協会ホームページより

新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）対応で活躍されている感染管理認定看護師の皆さんにお話を伺いました。（聞き手：常務理事 黒田京子）

— コロナ発生からこれまでの状況を教えてください

木村 当院は、感染症の指定病院として初期から受け入れをしてきました。3月、4月は試行錯誤の日々でしたが、現在は、受入れや感染対策についてもスタッフに浸透し、落ち着いてきたところです。

飯干 当院は6月に院内でクラスターが発生しました。マスコミでの報道もあり、周囲は騒然としました。とは言え、スタッフは淡々とやるべきことを行っていたという印象です。中国でコロナ発生の話が上がった頃から話し合いをしていたのが良かったかもしれません。

大沢 当院も感染症指定医療機関ですので、設備も整っていると思います。また、県立病院として、県や保健所とも協力して、こういった事態に備えて毎年訓練をしていました。当初は職員の戸惑いもありましたが、比較的慌てず

受け止められたと思っています。現在までに専用の病棟をつくり、これまでに200名以上の陽性患者さんを受け入れています。

高平 当院では、ハード面を整えるのに難航しました。動線の確保も難しく、陽性者の受け入れはなかなか実現せずにいました。しかし、救急病院としての役割を果たすべく、病院全体で検討を重ねてきました。今後は陽性の患者さんの受入れを視野に入れて準備をすすめる予定です。

—さまざまご苦労があったかと思います。

大沢 初期の頃は、「コロナ」にかかわること全てにおいて連絡がくるという感じでした。

高平 コロナの実態が判然としなかった3月頃は、発熱患者が来院されるたびに電話がきましたね。帰宅後も何時間かおきに電話が鳴りました。徐々に対応方法が整理されましたが、その頃の記憶はほぼないくらいです。

飯干 当時はまだ明確なエビデンスを示して回答するのが難しいような質問が多かったですね。

大沢 その時出ている対策方法や論文で対応するしかなくて。しかも、朝と夜で変化することもある。その連続でした。

木村 今でも迷うことがあります。例えばどんなガウンを使うかーガイドラインでは長袖ガウンでOKだとなったとしても、それまでフード付つなぎの防護具を着ていたのを変えるとなる



と、スタッフに不安や緊張を生む可能性がある。

大沢 フード付つなぎの防護具を着ているから守られているという安心感があって、脱げなくなることはありますよね。

ガイドラインでは大丈夫といっても、恐怖には代えられません。

木村 不安に関することって、ルールを決めてそれを守ってもらうことで解消できることではないですよ。そこを調整することも、感染管理の仕事だと考えています。

一対応に迷われたときはどうされましたか

木村 私たちは、埼玉県感染管理認定看護師ネットワークSHINE（シャイン）に所属しています。SHINEのグループラインやメールなどで相談することができたのは心強かったです。

高平 困った時に経験がある方の話を聞けるのが助かります。解決できないことがあっても、自分だけが悩んでいるわけじゃないということは、明日から頑張る活力になります。



一施設間でも相互に協力をされていましたか

木村 私たち、ありましたね。

飯干 ありました。当院で受け入れするにあたって施設の見学をお願いしました。ゾーニングの方法や患者移動の動線、患者受け入れまでの細かい流れなど、いろいろな情報をいただきました。

高平 当院は、同じ地域にある済生会栗橋病院と感染対策について連携していました。互いに評価しあうなどしていました。また、地域の高齢者介護施設から相談を受けたのですが、一緒に考える中で私自身も学ぶことがあり、大変勉強になりました。

大沢 県のケアラー支援として高齢者施設の指導依頼を受けました。要介護者のご家族が感染した場合に、一時的に要介護者が身を寄せるための施設です。施設は、災害用プレハブを利用したものでした。感染対策の基本の他、普段のケア方法などを聞き取りながら、実践可能な感染対策の提案を行いました。例えば、高頻度接触面を指摘してもらい環境整備の方法を指導したり、消毒薬の管理についての聞き取りから、アルコールシートの活用などを提案しました。細かいところまで話しをすることができたと思います。また、近隣の病院から多数の相談を受けています。ゾー



ニングや個人防護具に関する相談が多い印象です。個人防護具が不足していた時は、使用方法の聞き取りを行い、グローブを過剰使用しているようだったので、適正使用について提案しました。その他、複数の施設の方々が見学にみえたり、図面を送ってもらい

ゾーニングの相談対応なども行いました。

一今回の経験をとおして感じたことを教えてください

飯干 ICT（インフェクションコントロールチーム／感染制御チーム）はこれまでの積み重ねがあったので、動じずに対応できました。とはいえ、クラスターが発生したときは病院全体に激震が走りました。どのような状況でも、看護師は患者さんとの接触をゼロにすることはできません。防護具を使用して、患者さんの傍らに立ってケアをします。「やるしかないです。やりましょう」という言動に接することで、改めて、看護職は必要な行動に移すための心の準備が早いと感じました。また、医師や他の職種も含めて、過去にないくらい病院全体が連携してコロナに立ち向かいました。

大沢 当院も同じです。臨時会議を開くと、先生たちも必ず出席してくださいました。また、通常、出席することはない、清掃業者やその他の委託業者の方も会議に出ていただきました。それぞれの立場でプロフェッショナルとして意見を出し、病院を、埼玉県を守っていくのだと呼びかけあいました。それが自分たちの役割だと考えています。

木村 私は、これぞ看護の力!と思えるようなことがいくつもありました。長期入院の患者さんにお買い物代行をする。リハビリが必要な高齢の患者さんに対して、動線確保をして廊下を歩いてもらう。親子で入院され、子どもさんの心配が尽きないお母さんに寄り添う。全て、看護師が工夫しひと手間かけることで実現したことばかりです。「こうやってやりましょう」という提案があると、嬉しくなるといふか…。

自分も奮い立って、頑張る力を得ていたように思います。

一今後に向けて備えるべきことはなんでしょう

高平 現状では、いつ感染者が発生してもおかしくありません。蔓延させないためには、標準予防策の再徹底が必要だと思います。院内の各セクションとの連携はもちろんですが、保健所や地域の他施設との関係を強化していくことが重要です。



飯干 当地域では、保健所が管轄地域の総合病院の感染担当者を年に2回集めています。現状把握と共有などしているのですが、顔が見える関係ができていますので、とても助かっています。また、今回のことで施設間のネットワークができつつあります。広がっていきたいです。

それとは別に、各種メディアが発信する刺激的な情報に惑わされることがないような対策が必要です。医療従事者には、正確な情報を確認し、冷静に判断してほしいですね。

木村 とにかく大切なのは基本的に忠実ということです。これからインフルエンザの流行期に入ります。マスク・手指消毒。基本の基本をいかにちゃんと実行するかにかかってくるのかな、と思います。

一同 大きくなぞく

コロナ禍における看護教育

新型コロナウイルス感染症は、看護教育の場にも大きな打撃を与えました。
看護学生や新入職者をどのようにフォローアップしたのか、各所の取り組みをご紹介します。

看護学生の学び



藤田 京子氏

蕨戸田市医師会
看護専門学校

本年1月中旬からの新型コロナウイルスによる感染拡大は、看護教育の営みに大きな影響を与えました。当校の最大行事である3月の海外研修も中止となり、楽しみにしていた思い出作りの機会も奪われました。

4月は感染状況がさらに悪化し、入学式の次の日から閉校せざるを得ない状況でした。教育活動をどのように継続させるかは各学校に任せられ、次から次へと手を打たねば4年生を卒業に持っていけない危機感があった程です。臨地実習場の状況も厳しく、7月までの実習が学内だけという学生が出てしまいました。刻々と変化する現実には安全確保しながら対応し、既存の教育内容と方法を変更しなければ時間割さえ作れないという現実。しかし、学生は学内実習といえども多くの気づきをするのだという思わぬ学習効果をみることができました。

9月に入り、情報収集の機会だけでもと臨地で実習できたことで、学生の学びが格段に深化。やはり看護は臨地があってこそだと実感です。大変な時にリスクを覚悟で受け入れてくださった臨床現場に深く感謝します。

看護師養成の概況



清水 さとみ氏

埼玉県高等看護学校教務
主任協議会
会長

埼玉県内36校の看護師養成所は、昨年度末から令和2年度のカリキュラムに、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けております。4月7日付け調査結果は、4月は休校が70%、課題対応30%。臨地実習は、受け入れ困難が94%の養成所で発生している状況で今年度が開始しました。

前期のカリキュラム進捗や学校運営の影響については以下の通りです。

1. カリキュラム進捗

1) 授業について、4、5月は、殆どの養成所で課題学習や分散登校、授業時期の延期、急遽遠隔授業を取り入れ対応。6月通常登校に戻したのが50%弱。以後、徐々に通常登校。

2) 臨地実習について、4、5月はすべての養成所で学内対応又は、実習時期の変更。

制約の中で一部でも臨地実習が開始は、6月約70%。7月以降開始予定が約20%、年間を通じて中止となった養成所もあります。

2. 学校運営に関して

1) 感染防止策の備品購入(マスク、アルコール消毒、フェイスシールドや消毒機材等)

2) 学習環境の整備(シミュレーション教材・DVD等視覚教材の購入。遠隔授業実施のためWi-Fi環境等の整備。3密を避けるための環境整備)

現在は、対面での授業を実施し、臨地実習も制約の中で何とか開始され、必要な単位の修得が可能と考えます。これは、学生の夏休みの短縮や、感染防止策等日々様々な判断や対応をされた各養成所の教務主任をはじめ先生方の努力によるものです。心より敬意を表します。

さらに学生への学習面、精神面の影響は大きく、特に3年生は、臨地実習で学ぶ知識・技術・態度の習得状況が低いことが予測されます。このまま国家試験に向かいますがこの影響が少しでも改善できるよう引き続き努力していきます。学校運営には外部との連携が必須であります。引き続き看護協会をはじめ行政や県内医療機関のご協力をお願い致します。

実習の受け入れ



佐々木 信孝氏

新久喜総合病院
実習調整担当
副看護師長

当院では4校の看護学実習を受けており、4月から実習が始まる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により全て中止となってしまいました。それでもいつでも実習を始められるようにと、注意書きを作成し各看護学校に送りました。また発熱患者が入院する病棟を固定し、実習病棟の調整をおこないました。しかし5月もすべての実習が中止となってしまいました。

本格的に実習を再開できたのは6月に入ってからでした。それでも例年おこなっていた全体オリエンテーションや手術見学は中止させていただいています。また体調管理表を作成し、実習2週間前から体温や感冒症状の有無を記録してもらい、実習当日に提出してもらっています。

院内の対策としては、教員や学生が通るルートと発熱患者が搬送されるルートを分け、お互いが接することがないようにしています。また当院は急性期病棟と回復期病棟があるのですが、すべて急性期病棟で実習するようにしました。今後も状況に応じて柔軟に対応していけるよう、各所に相談しながら実習をすすめていきたいと考えています。

新卒採用者への教育



中田 尚子氏

埼玉県立
小児医療センター
看護部長

COVID-19第1波の最中、2020年度は新採用職員35名を迎え入れました。新人教育、特に4月は新採用職員研修として約3週間にわたる集合・体験型研修を中心とした教育方法で構築されていました。しかし、3密を避けることが求められ、3月末に急遽、ソーシャルディスタンスを保ちながら、実施可能な新採用職員研修はどのような形なのか、人との接触を最小限に留められる教育方法はどのようなものなのかを検討しました。そこで、元来の集合・体験型研修から、部署間の接触を持たない、各部署でのOJT (On The Job Training) を中心とした新採用職員研修に切り替えました。はじめは今までとは違う教育方法に戸惑いを感じていましたが、新人看護師教育担当者の支援もあり、教える側も教えることの喜びを感じ、新採用職員とともに「共に学び、成長する」という実感をえています。教える喜びを実感してほしいと考えOJTを促進していきたいとCOVID-19感染拡大の有無に関わらず、考えていました。COVID-19感染拡大はマイナスのことが多いですが、OJT促進を一気に進められたことはプラスのことでした。

下写真は集合研修が必須の時の3密を避けた写真です。



間隔を保っています



3人掛けの机を1人で使用

令和3年度の新人教育については、今年度とまた異なる配慮が必要と考えています。基礎教育の中で臨地実習がどの程度経験できたのか、不足分をどのように補完したのかなど、新人職員の教育背景を理解したうえで、基礎教育から継続教育へつなげていくことが課題だと思えます。

想定外ともいえるCOVID-19の拡大下において、OJTを中心として今まで以上に新人職員のリアリティショックに配慮しつつ、新人教育を進めていきたいと思っています。

看護学校の先生の声

心配事

- 実習に制限があったため、相手を理解して、尊重して関わるという患者さんとのコミュニケーションがとれていない部分があります。
- 今年度の卒業生は、患者さんとの交流経験に差があります。臨床現場に立った時に緊張し、実践ができないことも考えられるので、独り立ちするまでは、ぜひサポートしていただきたいです。

よかったこと

- 学内演習が多く、病態等に関しては理解を深めることができました。
- 振り返りの時間を十分に確保したことで、思考の整理ができたと感じています。
- リフレクションの確保ができたことは、よかったように思います。来年度以後も、推進していきたいです。



選挙管理委員会 推薦委員会からのお知らせ

令和3年度改選役員、推薦委員及び 令和4年度日本看護協会代議員、予備代議員への立候補・推薦について

選挙管理委員会からのお知らせ

令和3年6月19日(土)に開催される通常総会(会場:埼玉県看護協会研修センター)で、令和3年度改選役員、推薦委員及び令和4年度日本看護協会代議員、予備代議員の選挙を実施します。立候補される方は、正会員5人以上の推薦を受けて、立候補届出用紙を下記に郵送してください。

■改選役員数と役職等

1. 改選役員

会長	1名
副会長候補者	2名
常務理事候補者	3名
職能理事候補者	3名(助産師・看護師Ⅰ・看護師Ⅱ)
地区理事候補者	1名
監事候補者	1名(看護師)

2. 推薦委員 9人

3. 令和4年度日本看護協会代議員 25名
予備代議員 25名 ※3.の人数は想定

■立候補基準

1. 役員(任期2年)

- (1) 埼玉県看護協会の目的達成のための活動に積極的に任務を遂行できる人
- (2) 埼玉県看護協会の会員歴5年以上で、協会の役員又は委員としての活動経験を持ち、協会組織を理解している人
- (3) 埼玉県看護協会が定めた会議に出席できる人

2. 推薦委員(任期1年)

- (1) 埼玉県看護協会の目的に沿って組織を強化・発展させることができる人
- (2) 埼玉県看護協会の会員歴5年以上で、協会組織を理解している人
- (3) 埼玉県看護協会の実情をよく知り、定められた会議に出席し積極的に任務を遂行できる人

3. 代議員・予備代議員(任期1年)

- (1) 日本看護協会の理念・目的を理解し、1年間代議員としての責務を果たせる人

- (2) 埼玉県看護協会の会員歴5年以上で、協会組織を理解している人
- (3) 日本看護協会総会に出席できる人

■受付期間など

立候補届出用紙は埼玉県看護協会にありますので、ご連絡ください。

【連絡先】埼玉県看護協会：TEL048-624-3300

【送付先】〒331-0078
さいたま市西区西大宮3-3
埼玉県看護協会
選挙管理委員長宛 **親展**

【提出期限】令和3年2月5日(金) 必着

推薦委員会からのお知らせ

令和3年度改選役員、推薦委員及び令和4年度日本看護協会代議員、予備代議員の候補者を推薦される場合は、正会員5人以上の推薦が必要です。推薦していただいた方々につきましては、推薦委員会で協議の上、候補者として推薦を確定させていただきます。

■改選役員数と役職等

選挙管理委員会からのお知らせと同じ

■推薦基準

選挙管理委員会からのお知らせの立候補基準と同じ

■受付期間など

推薦書は埼玉県看護協会にありますので、ご連絡ください。

【連絡先】埼玉県看護協会：TEL048-624-3300

【送付先】〒331-0078
さいたま市西区西大宮3-3
埼玉県看護協会
推薦委員長宛 **親展**

【提出期限】令和3年1月22日(金) 必着



編集後記

広報委員会

世相を表す漢字一字「2020年今年の漢字」の応募受付が開始されました。

今年は、「コロナに始まりコロナで終わる」と表現しても過言ではなく、新型コロナウイルス感染症が世界中に猛威を振るい、いまだ終息の見えないままの状態です。今号の広報誌は、感染管理認定看護師の方々のご活躍にスポットライトをあて、貴重なお話を頂戴いたしました。また、看護学生の臨地実習が軒並み中止となったなかでの新たな気付きや、来春への展望など、コロナ禍における看護教育についても寄稿いただきました。見えない敵と闘いながらも私たち看護職は、患者や家族のため、県民のため、同僚のため、未来の看護師のため、常に誰かを慮って努力を積み重ねていることを再確認いたしました。看護職の高い志にエールを。

誌面作成にご協力をいただいたみなさまに心よりお礼を申し上げます。

広報誌「さいたま」125号はいかがでしたか? アンケートにお答えいただいた方の中から抽選でプレゼントが当たります。奮ってご参加ください。

- ◆応募締切: 12/31(木) まで
- ◆抽選で30名様にクオカードをプレゼント

▼アンケート内容

- 1 興味を持った記事はありましたか?
- 2 オンライン研修は受けられましたか? 受けた方は感想をお聞かせください。
- 3 Go Toキャンペーンは使われましたか? ご利用の様子をお聞かせください。
- 4 本号へのご意見、ご感想をお聞かせください。
- 5 プレゼントに応募される方は、お名前、郵便番号、住所をご入力ください。



回答はこちら



QUOカード
500円分
プレゼント!!